

議 長	副議長	事務局長	書 記
			



政務活動費実績報告書

令和 7 年 8 月 7 日

富谷市議会議員 金子 透 殿

会 派 名 公明党
代表者氏名 浅野直子
議 員 名



下記のとおり政務活動費を使用したので富谷市議会政務活動費運用指針の規定により、次のとおり報告します。

記

使 途	■調査研究費	□研修費	□広聴費	□要請・陳情活動
実 施 期 間	令和 7 年 7 月 6 日 (日) ~ 令和 7 年 7 月 8 日 (火)			
実 施 場 所	1 北海道網走市役所 7 月 7 日 10:00~11:30 〒 093-8555 北海道網走市南 5 条 1 丁目 10 TEL 0152-44-6111 2 北海道根室市立花咲港小学校 7 月 8 日 9:30~11:00 〒 087-0032 北海道根室市花咲港 209 TEL 0153-25-8859			
出席(参加)者名	浅野 直子、畠山 由美			
実施(調査)成果	※別紙のとおり			
行 程	(計画と変更がある場合記載) ※別紙 変更なし			

※各欄に記載できない場合、別紙添付により提出も可能。



政務調査報告書

会派名 公明党

日 時 令和7年7月7日(月) 10:00～
調 査 先 北海道網走市
調査項目 農産物について

●網走市の概要

網走市は、北海道のオホーツク海岸に位置する市で、流水や自然、歴史、そして豊かな海の幸が魅力です。年間を通して晴天が多く、降水量が最も少ない比較的温暖な気候です。漁業、農業、観光業が主な産業です。

- ・人 口 31,750 人
- ・世帯数 17,810 世帯
- ・面 積 471 km²
- ・降水量 年間 760.5 mm
- ・令和7年度一般会計当初予算 275 億 7,723 万円

●取り組みの概要

網走市では主に麦類(小麦・ビール大麦)、馬鈴薯(澱粉原料)、てん菜(ビート)の3品目により農作物生産額(115億円)の約95%を占めています。14,000 畝におよぶ広大な耕作地はなだらかな火山灰性の丘陵台地と、少ない降水量の条件を活かしており、農業経営の安定化を目的として、数戸の農家が大型農業機械を共同所有し、共同作業を行う「営農集団の組織化」が進展しています。

また、儲かる農業を目指し、新規就農者や若手農業者への手厚い支援体制と、地元農産物の高付加価値化、ブランド化の推進など、行政はさまざまな支援策を展開しています。具体的には、新規就農者に対しては、最大5年間、農地取得や経営開始に伴う費用の一部を市が助成しています。また、国の「農業次世代人材投資資金」を活用し、年間150万円を給付し、農業の担い手確保に貢献しています。さらに、東京農業大学と連携し、「地域課題戦略推進協議会」を開催し活動をサポート。道立オホーツク圏地域食品加工技術センターとの連携により、食品加工の試験研究や検査分析、技術指導を実施し、オホーツクブランドの認証事業に取り組んでいます。

一方、農業の抱える課題である担い手・後継者の確保に対しては、農業後継者育成研修事業や農業担い手実践研修支援事業を単独で推進しています。ICT、IoTな

どを積極的に活用し、農業のDX導入を進めトラクターの自動操作を活用するなど、スマート農業に取り組んでいます。

●所管

北海道の広大な耕作地には目を見張るものがありました。最初は富谷市の農業とあまりにも規模や生産物が異なるため、どのように活かしていけるのか疑問に感じていました。しかし、営農集団による共同営農形態の先進的な事例や、企業との連携、商品PRの取り組み、農業のICT化を学び大変参考になりました。

本市の農業においても、農業従事者の高齢化、技術力の向上、商品のブランド化といった課題に対して行政が主軸となって関わって頂きたいと考えます。農業で収益が上がらなければ、若い世代への継承も困難となるからです。

本市の特産品であるブルーベリーや富谷茶、はちみつなど、すでに広く知られており、それらを使ったスイーツフェアも浸透しています。これにより地域の魅力が高まっております。今後は、さらに生産力を向上させ、新商品開発を進めることで生産者の収入増につなげていく必要があります。そのためにも、企業や大学との連携を視野に入れ、行政にはさまざまな支援を引き続き進めていただきたいと考えます。

政務活動報告書

会派名 公明党

日 時 令和7年7月8日(火) 9:30～
調 査 先 北海道根室市
調査項目 インクルーシブ教育について

●根室市の概要

根室市は、北海道の東端に位置し、太平洋とオホーツク海に囲まれた自然豊かなまちです。ラムサール条約登録湿地である『春国岱』や『風蓮湖』など、世界に誇る自然環境を有しており、四季を通じて味覚と雄大な自然を楽しむことができます。また、北方領土問題については、問題が長期化する中でも、置き去りにされることのないよう、原点に立ち返り、返還要求運動に邁進しています。正しい認識と早期返還の実現に向けて、国内外に向けて積極的に声を発信しています。

- ・人 口 22,135 人
- ・世帯数 12,021 世帯
- ・面 積 512.6 km²
- ・令和7年度一般会計予算 258 億 4,000 万円

●取り組みの概要

根室市教育委員会では、学校教育、社会教育の融合を図りながら、「インクルーシブ教育」の推進に力を入れています。

「インクルーシブ教育」とは、障害の有無だけでなく、人種、性別、性的指向、学習の進め方やペースの違いなど、個々の多様な価値観や個性を尊重し、自分らしさを大切にする教育です。

花咲港小学校では、【自主】【協働】【創造】を教育目標とし、異年齢集団による教育活動を行っています。一人ひとりが時間割や学習計画を立て、自分に合った方法や環境で学んでいます。教師は、必要に応じて支援が必要な児童には、個別指導や適切な支援を行っています。

学校教育では、選択肢や試行錯誤を重ねながら学ぶ学習を推進し、社会教育では、互いを尊重し合いながら交流し、受容し合う事業を積極的に展開しています。これにより、子どもたちが自分らしさを育み、多様性を尊重する心を養うことを目指しています。

根室市は自然環境保全とともに、未来を担う子どもたちの育成に力を入れています。

●所管

花咲港小学校がインクルーシブ教育に取り組むきっかけは、急速に進む少子高齢化の中で、小学校の統合計画が浮上した際に、地域住民から大きな反対の声が上がったことにあります。「たとえ生徒が一人になっても、この花咲港小学校は残してほしい」という声が地域から寄せられました。根室の人々は情が厚く、子どもの成長を地域全体で応援し合う風土が根付いています。こうした地域の思いが教育委員会を動かし、インクルーシブ教育を通じてインクルーシブ社会の実現を目指す挑戦が始まりました。

花咲港小学校は、全校児童数が9名の小規模校で、現在の職員数は10名です。校舎内には、子どもたちがのびのびと学習できる環境と教材が整備されており、子どもたちは自分で考えた時間割に沿って学び、どのスペースで学習するのも自ら選択しています。さらに、「みなとーく」と呼ばれるフリースクの時間を設け、日々、自分の考えや悩み、感じたことを学年を超えて自由に話し合うことで、心理的安全性と信頼関係を築いています。こうした取り組みの結果、入学時には常にぬいぐるみを抱えて、誰とも話すことができなかった子どもや、テントの中でしか過ごせなかった子どもも、今では自然に他の子どもたちと笑顔で学ぶ姿が見られるようになっていきます。

本市においても、東北で初めて不登校特例校を開設し、子どもたちの学びを推進しており、非常に評価できる取り組みであると考えます。しかしながら、今後の課題として小学校低学年から不登校生徒が増加していることや、特別支援学級の子どものための学びの場についても検討が必要です。今回の花咲港小学校のインクルーシブ教育の取り組みは、多くの示唆を与えてくれるものであり、非常に参考になりました。

環境を整備し、一人ひとりに寄り添うこと、規制概念にとらわれない柔軟な教育が、子どもたちの個性を輝やかせるために何よりも重要であると実感しています。

根室市教育委員会では、「教師による一方的な説明の授業」、「子どもが思考を働かせていない授業」では学力は向上しないと指摘しています。時代は「教え方が上手な教師」の時代から、「学びたいと思う心を引き出す教師」の時代へと変わりつつあります。

本市においても、障害の有無だけでなく、あらゆる違いを認め合い、互いを尊重し合うインクルーシブ教育の推進は、多様性社会の中で生きていく子どもたちにとって大変重要であると考えます。規制の教育から自立を促す教育へと、ぜひ挑戦を続けてほしいと願っています。